

しまめぐり五里ありて、四方のめぐりは、いづこもくみないみじく高き岩にて、岸なる海深く、船よせがたし、もし船はつれば、岩のうへに大きな材をたて、大綱もてそのふねをつりあげおくなり、然せざれば浪風に岩にふれて船くだくるよしなり、此島山林木竹多し、島のみに有て田はなし、人の家はたゞ七戸ありしが、今は十戸に分たりとぞ、兄弟をぢめひなどもとづきて、一戸に三夫婦四夫婦などもすめりとぞ、かくて此島には鼠のいとく多く有て、物をくひそこなひ、人をもくふことよのつねならず、一とせ濱田より、人をつかはして、からせられけれどもかりえず、力およびがたかりしとぞ、いとあやしきことなり、さてこのしま人、男も女も髪あかくいと賤しげなるさまなり、米もなく、牛馬などもなし、みつぎ物には、たゞ鱒を濱田へ奉る、は、まだは此島の事とるつかさ人も、代官とて有とぞ、さて此島に祇園宮といひて、氏神とする社有、いかなる神を祭るにか、さだかならず、其祭にとなる詞あり、その詞、ひろたけの、楠の木は、かれてもにほひかうばしや、おやどりあれや、此宿の、さのみはないそぎめされそ、かく唱へて、楠の木を祭るとなり、かの國人小篠御野が物がたりなり、

地勢

〔和漢三才圖會七十九石見石見〕當國有高角山、岩崎山、岩奈仁山等之峻岨、而磐石峻難、故號石見國。

〔日本地誌提要四十九〕形勢 山脈南方ヨリ來リ、州内ニ連亘シ、嶂巒相望ミ、平坦ノ壤少ナク、江

川其東北ニ縈紆貫流シ、山陰第一ノ巨流タリ、海濱低鹵、運輸ニ便ナラズ、

〔日本實測錄四街道〕從備後國下御領、歷吉舎及三次至大森略中

石見國邑智郡酒谷村 一里一十六町二十四間 九日市村 二里七町一十二間 濱原村、三十

五度四分半、一十九町九間 粕淵村又呼小 一里三十町二十一間 別府村至小松地村宿所

極高三十五度五分半、二里一十三町五十四間 邇摩郡佐摩村 六町二十四間半 佐摩村大森駒之足

町 從下御領 街道通計三十五里三町五十八間略中

道路